

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-91802

(P2019-91802A)

(43) 公開日 令和1年6月13日(2019.6.13)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
H 0 5 K 5/02 (2006.01) H 0 5 K 5/02 E 4 E 3 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2017-219525 (P2017-219525)	(71) 出願人	304020498
(22) 出願日	平成29年11月14日 (2017.11.14)		サクサ株式会社
			東京都港区白金一丁目17番3号 NBF
			プラチナタワー
		(72) 発明者	西川 晃勝
			東京都港区白金一丁目17番3号 NBF
			プラチナタワー サクサ株式会社内
		(72) 発明者	後藤 創
			東京都港区白金一丁目17番3号 NBF
			プラチナタワー サクサ株式会社内
		Fターム(参考)	4E360 EA05 EC05 ED02 ED06 GA53
			GB99

(54) 【発明の名称】 電子機器の壁掛構造

(57) 【要約】

【課題】ビジネスフォンの主装置等の電子機器を壁の高い場所であっても簡単に取り付け

及び取り外しができる電子機器の壁掛構造を提供する。

【解決手段】電子機器の壁掛構造1は、電子機器Mを上側から保持する第1ブラケット10

と、電子機器を下側から保持する第2ブラケット20と、を備え、第1ブラケット10

が、第1背面部11と、第1背面部11の上端から前方に延在する第1上面部12と、第

1上面部12の前端から下方に延在する正面部13と、第1上面部12の中間領域から下

方に延在する中間部14とを有し、第2ブラケット20

が、第2背面部21と、第2背面

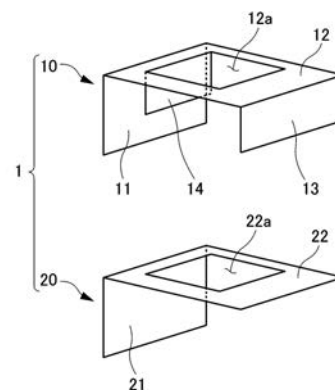
部21の上端から前方に延在する下面部22とを有し、

正面部13と中間部14が電子機

器Mの上部の正面と背面を保持し、下面部22が電子機

器Mの底面に取り付けられる。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

電子機器の壁掛構造であって、
前記電子機器を上側から保持する第 1 ブラケットと、
前記電子機器を下側から保持する第 2 ブラケットと、を備え、
前記第 1 ブラケットが、第 1 背面部と、前記第 1 背面部の上端から前方に延在する第 1 上面部と、前記第 1 上面部の前端から下方に延在する正面部と、前記第 1 上面部の中間領域から下方に延在する中間部とを有し、
前記第 2 ブラケットが、第 2 背面部と、前記第 2 背面部の上端から前方に延在する下面部とを有し、
前記正面部と前記中間部が前記電子機器の上部の正面と背面を保持し、前記下面部が前記電子機器の底面に取り付けられることを特徴とする電子機器の壁掛構造。

10

【請求項 2】

前記第 1 背面部が壁に取り付けられ、前記中間部が前記壁から一定の間隙を設けて形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の電子機器の壁掛構造。

【請求項 3】

前記電子機器が複数であるときに各電子機器の間を仕切る第 3 ブラケットをさらに備え、
前記第 3 ブラケットが、前記第 1 ブラケットの前記第 1 上面部に取り付けられる第 3 上面部と、前記第 3 上面部の中間領域から下方に延在する仕切部とを有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の電子機器の壁掛構造。

20

【請求項 4】

前記第 3 ブラケットの前記第 3 上面部が、前記第 1 ブラケットの前記第 1 上面部に対して前後方向に変位可能に取り付けられることを特徴とする請求項 3 に記載の電子機器の壁掛構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、電話機の主装置等の電子機器を壁に取り付けるための壁掛構造に関する。

【背景技術】

30

【0002】

従来、オフィス等に設置されるビジネスフォンの主装置は、壁に取り付けることがある。例えば、特許文献 1 のように主装置の背面にだるま状の穴を選択的に形成し、このだるま部分に壁に取り付けられる係合部材に引っ掛けて固定したり、特許文献 2 のようにブラケット（同文献では、「アタッチメントホルダー」と呼称）を形成してブラケットを壁に取り付けたりしていた。

【0003】

しかしながら、これらの特許文献については、いずれも簡単な形状ではあるものの、主装置を壁に取り付けることに傾注した構成となっている。すなわち、電話機の増設をしたり保守をしたりするためには主装置を壁から取り外し易い構造であることも求められるが、いずれの特許文献も取り外すためには上方に持ち上げて取り外す構造となっているため、主装置が壁の高い場所に取り付けられているような場合、工事者の負担となるという問題があった。また、主装置のような電子機器に接続されているケーブルの処理については何も考慮されていないという問題があった。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開平 9 - 4 2 2 3 6 号公報

【特許文献 2】特許第 6 0 0 9 3 3 1 号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】**【0005】**

本発明は、かかる課題に鑑みなされたものであり、ビジネスフォンの主装置等の電子機器を壁の高い場所であっても簡単に取り付け及び取り外しができる電子機器の壁掛構造を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記した課題を解決するために、本発明は、以下の態様によって把握される。

(1) 本発明に係る態様は、電子機器の壁掛構造であって、前記電子機器を上側から保持する第1ブラケットと、前記電子機器を下側から保持する第2ブラケットと、を備え、前記第1ブラケットが、第1背面部と、前記第1背面部の上端から前方に延在する第1上面部と、前記第1上面部の前端から下方に延在する正面部と、前記第1上面部の中間領域から下方に延在する中間部とを有し、前記第2ブラケットが、第2背面部と、前記第2背面部の上端から前方に延在する下面部とを有し、前記正面部と前記中間部が前記電子機器の上部の正面と背面を保持し、前記下面部が前記電子機器の底面に取り付けられることを特徴とする。

10

【0007】

(2) 上記(1)に記載の構成において、前記第1背面部が壁に取り付けられ、前記中間部が前記壁から一定の間隙を設けて形成される。

20

【0008】

(3) 上記(1)又は(2)に記載の構成において、前記電子機器が複数であるときに各電子機器の間を仕切る第3ブラケットをさらに備え、前記第3ブラケットが、前記第1ブラケットの前記第1上面部に取り付けられる第3上面部と、前記第3上面部の中間領域から下方に延在する仕切部とを有する。

【0009】

(4) 上記(3)に記載の構成において、前記第3ブラケットの前記第3上面部が、前記第1ブラケットの前記第1上面部に対して前後方向に変位可能に取り付けられる。

【発明の効果】**【0010】**

本発明によれば、ビジネスフォンの主装置等の電子機器を壁の高い場所であっても簡単に取り付け及び取り外しができる電子機器の壁掛構造を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】**【0011】**

【図1】本発明の第1実施形態に係る壁掛構造を構成する第1ブラケット及び第2ブラケットを模式的に示す斜視図である。

【図2】本発明の第1実施形態に係る壁掛構造の取付状況を示す側面図である。

【図3】図2の平面図である。

【図4】図2の正面図である。

【図5】本発明の第2実施形態に係る壁掛構造を構成する第1ブラケット、第2ブラケット及び第3ブラケットを模式的に示す斜視図である。

40

【図6】本発明の第2実施形態に係る壁掛構造の取付状況を示す側面図である。

【図7】図6の平面図である。

【図8】図6の正面図である。

【発明を実施するための形態】**【0012】**

以下、添付図面を参照して、本発明の実施形態について詳細に説明するが、各図において、同一符号は同一又は対応する部分を示す。また、本発明は、以下の説明からも明らかなようにこれらの実施形態に限定されるものではなく、発明の要旨の範囲内において当業者であれば種々の変形が可能である。

【0013】

50

(第1実施形態)

図1に示すように、第1実施形態に係る電子機器Mの壁掛構造1は、電子機器Mを上側から保持する第1ブラケット10と、電子機器Mを下側から保持する第2ブラケット20と、を備えている。電子機器Mは、例えばビジネスフォンの主装置などであるが、それに限られるものではない。

【0014】

なお、以下の説明において、図1に示すように、第1ブラケット10の正面部13の側を壁掛構造1の前方(前面、正面)、その反対側を後方(後面、背面)とし、壁掛構造1を前方から見たときの上下左右方向をそのまま上下左右方向とした直交座標系に基づいて説明するものとする。これらの方向は、各要素の相対的な位置関係を規定する意味で理解されるものである。

10

【0015】

(第1ブラケット10)

第1ブラケット10は、第1背面部11と、第1背面部11の上端から前方に延在する第1上面部12と、第1上面部12の前端から下方に延在する正面部13と、第1上面部12の中間領域から下方に延在する中間部14とを有している。詳しくは図2～図4を参照して後述するが、第1背面部11は、壁Wに取り付けられ、第1上面部12は、壁Wとは反対側に延在して電子機器Mの天面を覆い、正面部13と中間部14は、その間に電子機器Mの上部の正面と背面を保持する。

【0016】

20

第1ブラケット10は、このように、側面視において、第1背面部11、第1上面部12、正面部13及び中間部14によって、下方に向かって開放した異形のE字状となっている。第1ブラケット10をE字状に形成するにあたっては、例えば、第1背面部11、第1上面部12、正面部13及び中間部14を各別の部材で構成して互いに接合してもよいが、製造工程を簡略化する観点からは、1枚の板金を屈曲させて4面を構成することが好適である。図1では、第1背面部11と正面部13が1枚の板金の両端を下方に屈曲させて形成されている。また、中間部14は、第1上面部12の一部を放熱用にくり抜いて設けられる開口12aのくり抜き片を背面側に屈曲させて形成されている。

【0017】

(第2ブラケット20)

30

第2ブラケット20は、第2背面部21と、第2背面部21の上端から前方に延在する下面部22とを有している。詳しくは図2～図4を参照して後述するが、第2背面部21は、壁Wに取り付けられ、下面部22は、壁Wとは反対側に延在して電子機器Mの底面に取り付けられる。

【0018】

第2ブラケット20は、このように、側面視において、第2背面部21及び下面部22によって、下方に向かって開放したL字状となっている。第2ブラケット20をL字状に形成するにあたっては、例えば、第2背面部21及び下面部22を各別の部材で構成して互いに接合してもよいが、製造工程を簡略化する観点からは、1枚の板金を屈曲させて2面を構成することが好適である。図1では、第2背面部21が1枚の板金の一方端を下方に屈曲させて形成されている。下面部22には、放熱用の開口22aが設けられている。

40

【0019】

(壁掛構造1)

次に、図2及び図3を参照して、第1ブラケット10と第2ブラケット20による壁掛構造1について説明する。

【0020】

図2に示すように、第1ブラケット10の第1背面部11は、壁WにネジBによってネジ止めされる。なお、ここでは、第1背面部11は、壁Wから見て電子機器Mと同じ側に位置している態様を示しているが、これに限らず、壁Wが上端を有するパーテーションのような場合には、第1背面部11は、壁Wの電子機器Mと反対側の面に取り付けるように

50

してもよい。

【0021】

中間部14は、壁Wから距離L1（一定の間隙）だけ離間するように設定されている。そして、正面部13は、保持される電子機器Mの幅に対応するように、中間部14から距離L2だけ離間するように設定されている。

【0022】

電子機器Mの天面は、第1上面部12にネジ止めされることはなく、第1上面部12は、電子機器Mの天面を覆った状態となっている。これは、壁掛構造1が壁Wの高い位置に取り付けられるような場合、電子機器Mの天面の上方からネジ止めすることが困難であることによる。壁掛構造1では、電子機器Mの正面と背面が、前述したとおり、正面部13と中間部14によって保持される。

10

【0023】

第2ブラケット20の第2背面部21は、壁WにネジBによってネジ止めされる。下面部22は、第1ブラケット10の第1上面部12に対応して、距離L1と距離L2を合わせた距離をもって設定される。

【0024】

電子機器Mの底面は、下面部22にネジBによってネジ止めされる。これは、前述したように壁掛構造1が壁Wの高い位置に取り付けられるような場合、電子機器Mの底面の下方からネジ止めすることが容易であることによる。

【0025】

20

電子機器Mから延出するケーブルCは、図2及び図3に示すように、壁Wと中間部14の間の距離L1（一定の間隙）を利用して、下面部22上に整理して配置される。これにより、ケーブルCは、乱雑になることがなく、また、電子機器Mの背面と壁Wの間に隠されるため、壁掛構造1を前方や下方から見た際に人の目に触れることも少なく、オフィスの良い景観に寄与する。なお、電子機器MのケーブルCの接続側には、接続部をカバーするケーブルカバーCCが設けられてもよい。

【0026】

（壁掛構造1の使用例）

壁掛構造1の使用例について、図4を用いて説明する。電子機器Mを壁掛構造1に取り付ける際には、次の手順による。まず、第1ブラケット10と第2ブラケット20を電子機器Mの高さに多少の余裕を見込んだ距離だけ離間させて壁Wに取り付ける。次に、電子機器Mの天面の側を第1ブラケット10の中間部14と正面部13の間に位置させつつ、電子機器Mの底面を第2ブラケット20の下面部22に載置する。そして、中間部14と正面部13をレールとして案内させつつ、電子機器Mを下面部22上で左方向L又は右方向Rに摺動させる。そして、所定の位置にきたときに、電子機器Mの底面を下面部22にドライバDを用いてネジBでネジ止めする。

30

【0027】

電子機器Mを壁掛構造1から取り外す際には、次の手順による。まず、電子機器Mの底面と第2ブラケット20の下面部22とを取り付けてあるネジBをドライバDを用いて外す。次に、電子機器Mの天面の側を第1ブラケット10の中間部14と正面部13をレールとして案内させつつ、電子機器Mの底面を第2ブラケット20の下面部22上で左方向L又は右方向Rに摺動させる。そして、電子機器Mを第1ブラケット10と第2ブラケット20の間から抜き取る。

40

【0028】

このように、電子機器Mは、第1ブラケット10及び第2ブラケット20を備える壁掛構造1を壁Wに取り付けたままの状態、左方向L又は右方向Rに摺動して取り付け/取り外しが可能となる。

【0029】

（第2実施形態）

次に、第2実施形態に係る電子機器Mの壁掛構造1Aについて説明する。壁掛構造1A

50

は、電子機器 M が複数の電子機器 M a , M b であるときに、電子機器 M a , M b が壁 W から見て重層的に配置されるときに対応するものであり、図 5 に示すように、電子機器 M を上側から保持する第 1 ブラケット 1 0 と、電子機器 M を下側から保持する第 2 ブラケット 2 0 に加えて、各電子機器 M の間を仕切る第 3 ブラケット 3 0 をさらに備えるものである。第 1 ブラケット 1 0 及び第 2 ブラケット 2 0 は第 1 実施形態と同様であるので、その説明は割愛する。

【 0 0 3 0 】

(第 3 ブラケット 3 0)

第 3 ブラケット 3 0 は、第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 に取り付けられる第 3 上面部 3 2 と、第 3 上面部 3 2 の中間領域から下方に延在する仕切部 3 3 とを有している。第 3 ブラケット 3 0 は、仕切部 3 3 が第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 の開口 1 2 a に挿入されるように、第 3 上面部 3 2 を第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 に載置させる。

10

【 0 0 3 1 】

第 3 ブラケット 3 0 は、このように、側面視において、第 3 上面部 3 2 及び仕切部 3 3 によって、下方に向かって開放した異形のト (ぼく) 字状となっている。第 3 ブラケット 3 0 をト字状に形成するにあたっては、例えば、第 3 上面部 3 2 及び仕切部 3 3 を各別の部材で構成して互いに接合してもよいが、製造工程を簡略化する観点からは、1 枚の板金を屈曲させて 2 面を構成することが好適である。図 5 では、仕切部 3 3 は、第 3 上面部 3 2 の一部を放熱用にくり抜いて設けられる開口 3 2 a のくり抜き片を正面側に屈曲させて形成されている。

20

【 0 0 3 2 】

(壁掛構造 1 A)

次に、図 6 及び図 7 を参照して、第 1 ブラケット 1 0 、第 2 ブラケット 2 0 及び第 3 ブラケット 3 0 による壁掛構造 1 A について説明する。ここでは、電子機器 M が 2 台の電子機器 M a , M b である場合について説明するが、壁掛構造 1 A は、電子機器 M が 3 台以上の場合にも拡張できるものである。

【 0 0 3 3 】

図 6 に示すように、第 1 ブラケット 1 0 の第 1 背面部 1 1 は、壁 W にネジ B によってネジ止めされる。なお、第 1 背面部 1 1 は、第 1 実施形態と同様に、壁 W の電子機器 M a , M b と反対側の面に取り付けるようにしてもよい。

30

【 0 0 3 4 】

第 3 ブラケット 3 0 の第 3 上面部 3 2 は、第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 にネジ B によってネジ止めされる。ここで、第 1 上面部 1 2 にネジ B を受容するネジ孔 (不図示) を前後方向に延在する長孔を形成しておくことにより、第 3 ブラケット 3 0 を第 1 ブラケット 1 0 に対し変位可能に取り付けられるようにしてもよい。そうすると、電子機器 M a , M b のそれぞれの厚みに応じて、第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 の位置を変位させることができる。

【 0 0 3 5 】

第 1 ブラケット 1 0 の中間部 1 4 は、壁 W から距離 L 1 (一定の間隙) だけ離間するように設定されている。そして、第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 は、保持される電子機器 M a の幅に対応するように、中間部 1 4 から距離 L 2 a だけ離間するように設定されている。また、第 1 ブラケット 1 0 の正面部 1 3 は、保持される電子機器 M b の幅に対応するように仕切部 3 3 から距離 L 2 b だけ離間するように設定されている。

40

【 0 0 3 6 】

電子機器 M a , M b の天面は、第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 及び第 3 ブラケット 3 0 の第 3 上面部 3 2 にネジ止めされることはなく、第 1 上面部 1 2 は、電子機器 M a , M b の天面を、第 3 上面部 3 2 は、第 1 上面部 1 2 を介して電子機器 M a の天面を覆った状態となっている。これは、壁掛構造 1 A が壁 W の高い位置に取り付けられるような場合、電子機器 M a , M b の天面の上方からネジ止めすることが困難であることによる。壁

50

掛構造 1 A では、電子機器 M a の正面と背面が仕切部 3 3 と中間部 1 4 によって、電子機器 M b の正面と背面が正面部 1 3 と仕切部 3 3 によって保持される。

【 0 0 3 7 】

第 2 ブラケット 2 0 の第 2 背面部 2 1 は、壁 W にネジ B によってネジ止めされる。下面部 2 2 は、第 1 ブラケット 1 0 の第 1 上面部 1 2 に対応して、距離 L 1 と距離 L 2 a 及び距離 L 2 b を合わせた距離をもって設定される。

【 0 0 3 8 】

電子機器 M a , M b の底面は、下面部 2 2 にネジ B によって各別にネジ止めされる。これは、前述したように、壁掛構造 1 A が壁 W の高い位置に取り付けられるような場合、電子機器 M a , M b の底面の下方からネジ止めすることが容易であることによる。

10

【 0 0 3 9 】

電子機器 M a , M b から延出するケーブル C は、第 1 実施形態に係る壁掛構造 1 と同様に、図 6 及び図 7 に示すとおり、壁 W と中間部 1 4 の間の距離 L 1 (一定の間隙)を利用して、下面部 2 2 上に整理して配置される。また、電子機器 M a , M b のケーブル C の接続側で接続部をカバーするケーブルカバー C C a , C C b を設けてよい点も、第 1 実施形態に係る壁掛構造 1 と同様である。

【 0 0 4 0 】

(壁掛構造 1 A の使用例)

壁掛構造 1 A の使用例について、図 8 を用いて説明する (図 6 及び図 7 も併せて参照) 。電子機器 M a , M b を壁掛構造 1 A に取り付ける際には、次の手順による。まず、第 1 ブラケット 1 0 と第 2 ブラケット 2 0 を電子機器 M a , M b の高さに多少の余裕を見込んだ距離だけ離間させて壁 W に取り付ける。そして、第 3 ブラケット 3 0 を第 1 ブラケット 1 0 上に取り付ける。次に、電子機器 M a の天面の側を第 1 ブラケット 1 0 の中間部 1 4 と第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 の間に、電子機器 M b の天面の側を第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 と第 1 ブラケット 1 0 の正面部 1 3 の間にそれぞれ位置させつつ、電子機器 M a , M b の底面を第 2 ブラケット 2 0 の下面部 2 2 に載置する。そして、中間部 1 4 と仕切部 3 3 と正面部 1 3 をレールとして案内させつつ、電子機器 M a , M b を下面部 2 2 上で左方向 L 又は右方向 R に摺動させる。そして、所定の位置にきたときに、電子機器 M a , M b の底面を下面部 2 2 にドライバ D を用いてネジ B でネジ止めする。電子機器 M a , M b の取り付けは、同時に行ってもよいし、各別に行ってもよい。

20

30

【 0 0 4 1 】

電子機器 M a , M b を壁掛構造 1 A から取り外す際には、次の手順による。まず、電子機器 M a , M b の底面と第 2 ブラケット 2 0 の下面部 2 2 とを取り付けてあるネジ B をドライバ D を用いて外す。次に、電子機器 M a , M b の天面の側を第 1 ブラケット 1 0 の中間部 1 4 と正面部 1 3 及び第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 をレールとして案内させつつ、電子機器 M a , M b の底面を第 2 ブラケット 2 0 の下面部 2 2 上で左方向 L 又は右方向 R に摺動させる。そして、電子機器 M a , M b を第 1 ブラケット 1 0 と第 2 ブラケット 2 0 の間から抜き取る。電子機器 M a , M b の取り外しは、同時に行ってもよいし、各別に行ってもよい。

【 0 0 4 2 】

このように、壁 W から見て重層的に配置された電子機器 M a , M b は、第 1 ブラケット 1 0 、第 2 ブラケット 2 0 及び第 3 ブラケット 3 0 を備える壁掛構造 1 A を壁 W に取り付けたままの状態、各別に、左方向 L 又は右方向 R に摺動して取り付け / 取り外しが可能となる。

40

【 0 0 4 3 】

(実施形態の効果)

以上のような構成としたことから、壁掛構造 1 は、以下のような効果を奏する。

(1) 電子機器 M の底面が第 2 ブラケット 2 0 の下面部 2 2 に固定され、電子機器 M の天面が第 1 ブラケット 1 0 に固定されずに正面及び背面を保持されることにより、電子機器 M を確実に壁掛構造 1 に固定することができる。と同時に、壁掛構造 1 が壁 W の高い位置

50

に取り付けられるような場合でも、電子機器 M の底面と下面部 2 2 のネジ B を外すことにより、壁掛構造 1 を壁 W に取り付けたまま、保守等のために電子機器 M を左右方向（横方向）に摺動させることで取り外すことができる。

（２）電子機器 M から延出するケーブル C を壁掛構造 1 と第 1 ブラケット 1 0 の中間部 1 4 の間の距離 L 1（一定の間隙）を利用して電子機器 M の背面側に這わすことができるため、配線されたケーブル C を整理して配設することができるとともに、正面視において見栄えを良くすることができる。

【 0 0 4 4 】

壁掛構造 1 A は、これらの効果に加え、さらに以下のような効果を奏する。

（３）第 3 ブラケット 3 0 の仕切部 3 3 を設けることにより、複数の電子機器 M a , M b を壁 W から見て重層的に配置することができる。と同時に、電子機器 M a , M b を、壁掛構造 1 A を壁 W に取り付けたままの状態、各別に左右方向に摺動させて取り付け／取り外すことができる。

（４）第 3 ブラケット 3 0 を第 1 ブラケット 1 0 に対して変位可能に設けた場合、電子機器 M a , M b のそれぞれの厚みに応じて重層的に配置することができる。

【 0 0 4 5 】

以上、実施形態について説明したが、本発明は、具体的な実施形態に限定されるものではなく、種々の変更を行ったものも含まれるものであり、そのことは、当業者にとって特許請求の範囲の記載から明らかである。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 6 】

1 , 1 A ... 壁掛構造

1 0 ... 第 1 ブラケット、 1 1 ... 第 1 背面部、 1 2 ... 第 1 上面部、 1 2 a ... 開口、 1 3 ... 正面部、 1 4 ... 中間部

2 0 ... 第 2 ブラケット、 2 1 ... 第 2 背面部、 2 2 ... 下面部、 2 2 a ... 開口

3 0 ... 第 3 ブラケット、 3 2 ... 第 3 上面部、 3 2 a ... 開口、 3 3 ... 仕切部

M , M a , M b ... 電子機器

L 1 , L 2 a , L 2 b ... 距離

C ... ケーブル

C C , C C a , C C b ... ケーブルカバー

B ... ネジ

D ... ドライバ

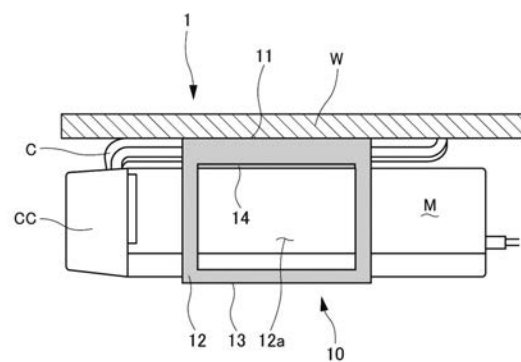
W ... 壁

10

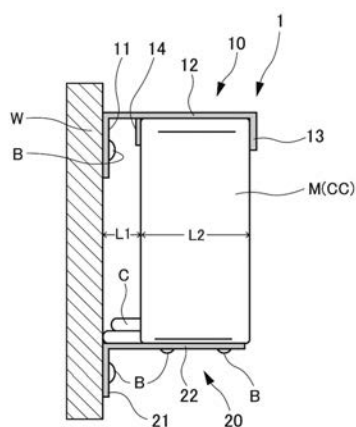
20

30

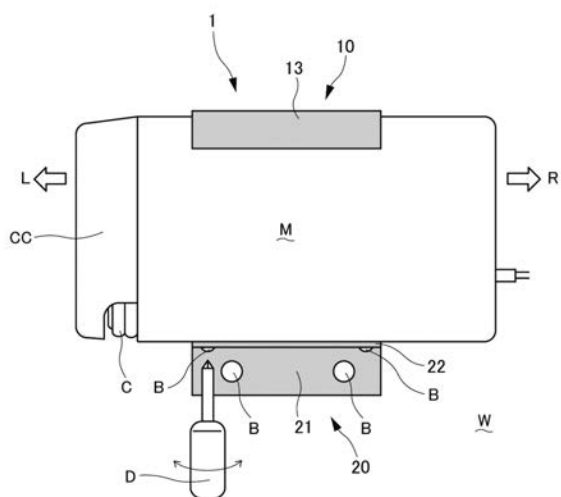
【圖 3】



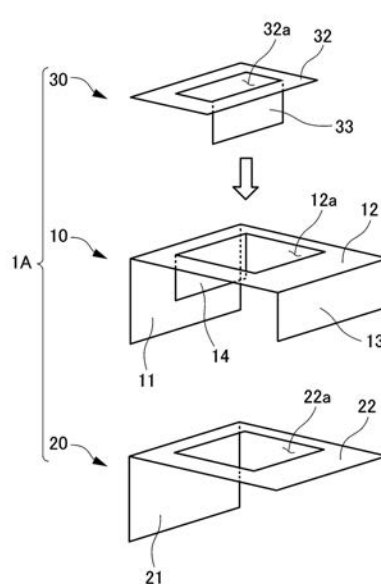
【圖 2】



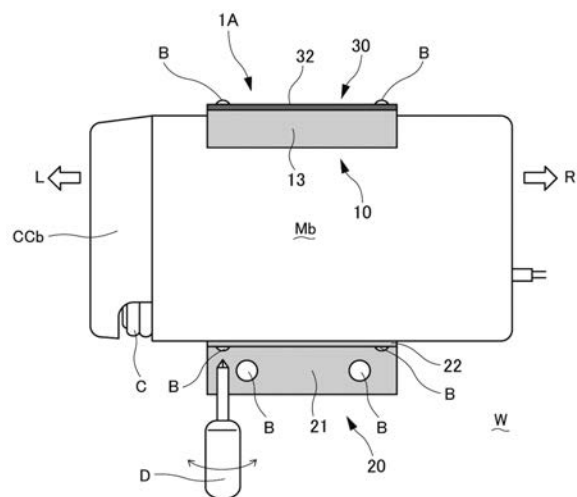
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 8 】



【 図 7 】

